

目的 視覚情報化社会においてファッション環境にもさまざまな変化がみられ、人々も社会もそれぞれ影響を受けている。その中で、感性豊かな年代の女子学生が服装にどのようなイメージをもっているのか、1993年より経年的な調査を実施してきた。本報は被服造形学演習においてワンピース・ドレスの創作、着装においてそのイメージ要因を検討し、経年変化から服装嗜好の資料とすることを目的とした。

方法 1)被験者 女子学生(年齢18~21歳)51名、2)生地購入時期 1996年4月、完成 1997年1月、3)色彩の視感判定、4)布地の鑑別、5)形態の分類、6)着装評価 形容詞22尺度 5段階評定、7)主成分分析 イメージ・プロフィール、相関行列、固有値、因子負荷量、個人値と色彩との対応、イメージ空間に解釈を加えた。

結果 ワンピース・ドレスの生地素材は、季節の影響で天然素材のウールが殆どである。色彩は黒、灰、黄赤系が多く、前報に比べ有彩色の出現が目立つ。形態では、スカート丈が短めの傾向にある。イメージ・プロフィールは、「落ち着いた、上品な、好きな、女性的な、美しい」が上位、「渋い、強い、洗練された」が中位である。形容詞間の相関は、「明るい、甘い」「やわらかい、軽い」「軽い、明るい」「新しい、流行の」が高い。因子負荷量から、第3因子までの累積寄与率は53.3%である。因子を意味空間で解釈すると、4つのタイプに分類される。

これらのことから、女子学生の服装嗜好は有彩色の出現により、女性らしさの表現に「軽快感」と「落ち着き」の二面性がみられ、さらに流行とファッション性を意識した自己表現であることがわかった。